

平成31年度  
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
 成果報告書

団 体 名	公益財団法人足利市みどりと文化・スポーツ財団	
施 設 名	足利市民会館	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	27,595	(千円)
公演事業	17,136	(千円)
人材養成事業	5,801	(千円)
普及啓発事業	4,658	(千円)

# 1. 事業概要

## (1) 平成31年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	足利市民会館・専属芸術団体「足利ミュージカル」2019 足利創生活動	令和元年10月27日	演目：市民参加型ミュージカル「遥かなる時代をこえて」 出演：佐々木崇、和泉紗江、足利ミュージカル、市民参加者ほか	目標値	1,434名 60名
		足利市民会館 大ホール		実績値	1,417名 62名
2	足利市民会館・専属芸術団体「足利カンマーオーケスター」2019 足利創生活動	令和元年7月21日	演目：ラヴェル/クーブランの墓ほか 指揮/キンボー・イシイ 管弦楽/足利カンマーオーケスター	目標値	440名 550名
		足利市民会館 大ホール		実績値	754名 572名
3	足利市民会館・専属芸術団体「足利オペラ・リリカ」2019 足利創生活動	令和2年1月26日	演目：カルメン 出演：田崎尚美、大隅智佳子ほか、 演奏/足利カンマーオーケスター	目標値	700名 800名
		足利市民会館 大ホール		実績値	690名 745名
4	準フランチャイズ芸術団体連携プロジェクト「N響プロジェクト」2019	令和元年11月9日	演目：ベートーヴェン/英雄ほか 指揮：ヘルベルト・ブロムシュテット	目標値	1,000名
		足利市民会館 大ホール		実績値	1,189名 395名
5	佐渡裕指揮シエナ・ウィンド・オーケストラ足利公演	令和元年12月17日	演目：ウィリアムズ/オリンピック・ファンファーレ&テーマほか 指揮：佐渡裕	目標値	1,080名 60名
		足利市民会館 大ホール		実績値	1,204名 88名
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	

(2) 平成31年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	足利市民会館・附属芸術団体「足利ユースオーケストラ」2019 足利創生活動	平成31年4月6日～ 令和2年2月15日	全体統括：風岡優 講師：遠藤昌子、神山みどり、鈴岡淳子、吉田美由樹、平澤彰史ほか	目標値	1,200名 3,340名
		足利市民会館		実績値	700名 2,911名
2	足利市民会館・専属芸術団体「足利ミュージカル」研究科・第8期	平成31年6月1日～ 令和2年2月29日	講師：小嶋希恵、三橋奈月、凰樹いち、秋葉敦子、鷹野沙弥香、和泉紗江	目標値	200名 1,600名
		足利市民会館		実績値	中止 1,112名
3	足利市民会館・専属芸術団体「足利オペラ・リリカ」研究科・第8期	平成31年6月11日～ 令和2年3月4日	講師：大隅智佳子、小林昭裕、原純、内山信吾、斉木健詞、和田ひできほか	目標値	200名 200名
		足利市民会館		実績値	71名 158名
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	

(3) 平成31年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程		概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場			目標値	実績値
1	小中学校芸術教室事業 鑑賞プログラム 小学校 音楽教室	令和元年6月6~7日	足利市民会館	演目:「ヘンゼルとグレーテル」ハイライト 出演:足利オペラ・リリカほか	目標値	4,000名
					実績値	3,857名
2	小中学校芸術教室事業 鑑賞プログラム 中学校 音楽教室	令和元年6月4~5日	足利市民会館	演目:ビゼー/カルメン ハイライト 出演:足利オペラ・リリカほか	目標値	2,000名
					実績値	2,136名
3	小中学校芸術教室事業 鑑賞プログラム 小学校 (高学年)演劇教室	令和元年9月11~13日	足利市民会館	演目:銀河鉄道の夜 出演:小澤可依ほか	目標値	3,600名
					実績値	3,759名
4	アウトリーチプログラム 小学校出前コンサート(音楽・伝統芸能)	令和元年5月14日~ 令和元年12月10日	足利市内小学校	演目:フニクリ・フニクラほか 出演:足利オペラ・リリカほか	目標値	2,000名
					実績値	1,732名
5	アウトリーチプログラム 小学校演劇ワークショップ	令和元年6月13日~ 令和元年10月21日	足利市内小学校	演目:フレンド・ライク・ミー 出演:足利ミュージカル	目標値	400名
					実績値	331名
6	子ども伝統芸能総合プロジェクト「地域伝統芸能体験・成果発表会」	令和2年1月13日	足利市民会館	演目:幡随院長兵衛ほか 出演:あしかが子ども歌舞伎ほか	目標値	400名
					実績値	402名
7	専属プロフェッショナル 芸術団体による「出前公演」	令和元年8月25日~ 令和元年12月8日	足利市内公民館	演目:銀河鉄道の夜ほか 出演:足利ミュージカルほか	目標値	270名
					実績値	254名
					目標値	
					実績値	
					目標値	
					実績値	
					目標値	
					実績値	
					目標値	
					実績値	

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価
社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。
<p><b>【地域資源に基づくミッション】</b></p> <p>当館が掲げるミッションは、①市民文化の高揚と熟成、②子どもたちの芸術環境づくりの推進、③福祉社会への側面的支援、④未来の人材育成、⑤地域交流をとおしてのにぎわい創出の以上5点です。このようなミッション設定の背景には、足利市が日本遺産「史跡足利学校」を教育・文化のシンボルに掲げ、文化のまち足利における文化芸術活動を推進していることが挙げられます。</p> <p>上記の文化芸術による生涯学習を達成すべく、当館は公演事業（鑑賞型事業および参加型事業）、人材育成事業、普及啓発事業などの多様な事業を、「いつでも」「誰でも」「気軽に」参加できるよう展開しています。</p> <p><b>【当館の専属および附属芸術団体による取組】</b></p> <p>当館では、年間を通して文化芸術に参加できるよう地域の人たちによる「足利カンマーオーケスター」「足利オペラ・リリカ」「足利ミュージカル」、そして、地域の小学生～高校生からなる「足利ユースオーケストラ」を結成し、公演、体験、アウトリーチなどの事業を行いました。</p> <p>足利市周辺ではこのような年間を通して活動している芸術団体は少ないためか、周辺地域からの参加もみられました。</p>
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。
<p><b>【足利市シティプロモーションの強みとしての取組】</b></p> <p>当館の専属芸術団体「足利ミュージカル」や附属芸術団体「足利ユースオーケストラ」の活動は足利シティプロモーションの強みとして取り上げられています。</p> <p>また、NHK 交響楽団や佐渡裕氏の演奏会は、アンケートによると足利市内の人だけでなく、足利市外・栃木県外の人にも支持されています。なかには、公演を鑑賞に来場したことで「足利市および当館の取組を知ることができた」「あしかがフラワーパーク（市内観光施設）にも行きました」という感想もありました。</p> <p>以上のことから、文化芸術を通して足利市のPRができたと考えられます。</p> <p><b>【地域の子どもたちの拠り所の創出】</b></p> <p>2019年10月12日に発生した台風19号により、足利市およびその周辺地域は被災しました。しかし、当館附属芸術団体「足利ユースオーケストラ」の活動および「足利ミュージカル」の市民参加型事業に参加した子どもたちのなかで、被災を理由に退団および休止をした参加者はいませんでした。このことから非常事態であっても、定期的な活動の場が地域の子どもたちに必要であったと推測できます。</p>

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

#### 【公演事業の目標設定】

当館の目標は、過去の事業の入場者・参加者数をもとに、入場者・参加者数の目標は80%に設定しています（過去公演の入場者/大ホール1階座席数×100≒80%）。それに併せて、アンケート満足度も同様に80%と設定しています。

#### 【公演事業の達成状況】

入場者数およびアンケート満足度は、一部目標に届かない事業がありました。しかし、いずれの事業も入場者数は前年度より増加しています。PDCAの場では、一律に80%という目標ではなく、個々の目的に合わせた目標設定があってもよいのではないかとの声が上がりました。

#### 【人材育成事業の目標設定】

当館の目標は、過去の事業の参加者数と講師の都合および参加者が十分な体験できる人数をもとに、参加者数の目標を設定しています。

#### 【人材育成事業の達成状況】

足利ミュージカル研究科および足利オペラ・リリカ研究科の目標は達成しましたが、足利ユースオーケストラは目標を達成することができませんでした。PDCAの場では、台風19号の影響で体験ワークショップが開催中止となり、音楽への入り口を提供できなかったことが原因として挙げられました。

#### 【普及啓発事業の目標設定】

鑑賞型の普及啓発事業は、足利市内全小中学校（小学校22校、中学校11校、特別支援学校2校）の児童が鑑賞できることを目標にしています。

一方、市内小学校および特別支援学校を対象とした体験ワークショップ型の普及啓発事業は、前年の参加学校数および学校の年間計画をもとに目標を設定しました。

市内公民館へのアウトリーチ公演は、足利市民会館に遠い地区を3か年で全て回るという計画の2年目です。前年度に引き続き、今年度も3か所で公演をしました。定員100名規模のホールがある公民館で80%の入場者を目標としています。

#### 【普及啓発事業の達成状況】

公演当日に雷警報のあった1公演で参加を見送った1校を除き、鑑賞型の普及啓発事業は足利市内の全ての学校が参加しました。

音楽・伝統芸能コースは、24校中22校の参加でした（中には2回参加した学校もありました）。演劇ワークショップコースは9校でした。PDCAの場では、熱中症の時期を避けた結果と考えられました。

市内公民館へのアウトリーチ公演は、3公演併せて254名でした。PDCAの場では、公民館の掲示板や地域の自治会などと広報協力した結果だと考えられました。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

#### 【年間を通した「いつでも」参加できる事業計画】

当館は専属芸術団体を中心に事業を展開することで、1年を通して「いつでも」「誰でも」「気軽に」文化芸術に触れることができるよう事業を計画しており、事業期間・事業費（なかには収入面で予定をやや下回った事業もありますが）ともにほぼ計画通りに行いました。しかし、2019年10月12日に発生した台風19号や新型コロナウイルス感染症の影響により中止した事業もありました。

#### 【公演間隔が短く前売りが苦戦した公演】

公演と公演の間の期間が短く、当初計画より前売りが苦戦した公演がありました。それは「足利ミュージカル」の市民参加型公演（10月公演）と親子向け公演（12月公演）です。

#### （当初計画）

当初は、市民参加型公演は子どもの参加者および入場者が多いことが予想されるため、親子向け公演の広報が併せてできると計画していました。また、親子向け公演のチケットの発売日を10月にすることで、市民参加型公演の入場者が併せて購入できるよう設定し、相乗効果を狙いました。

#### （結果とPDCA）

しかし実際は、前売り券の売上は想定以上に少ないという結果になりました。PDCAの場ではその要因として次の2つの仮説が挙げられました。

仮説①公演と公演の間が2か月という期間は、出演者の練習期間的には問題なくとも、入場者にとってはまだ前公演の余韻があり、短いのではないかと。

仮説②市民参加型公演という大きな公演が一種の燃え尽き症候群になったのではないかと。

次年度以降はこれらの仮説をもとに事業計画を行います。

なお、最終的な入場者数は定員の70%でした。これは、関連プログラムを記載したチラシの追加配布などの広報を行うことにより、当日券を求められる入場者が増加したと考えられません。

#### (4) 創造性

##### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

###### 【足利市民会館への評価】

当館は 1966 年の開館以降、様々な取り組みを行ってきました。その成果は下記のとおりの評価を頂きました。

2008 年：NHK 交響楽団「有馬賞」受賞

2010 年：地域創造大賞（総務大臣賞）受賞

2017 年：2016 年度文化庁長官表彰（文化芸術創造都市部門）受賞

###### 【15年以上続く準・フランチャイズ団体「NHK 交響楽団」との連携】

1999 年に当館で N 響定期公演を行いました。これを契機に 2003 年から定期公演と関連プログラムを行っています。関連プログラムでは、市内小学校におけるアウトリーチや未就学児も鑑賞可能な日本遺産「史跡足利学校」におけるコンサートを行いました。

つまり、当館と市内教育機関や地域資源と連携することで、ヘルベルト・ブロムシュテット指揮のプログラムを、足利市内外の多くの世代の人に文化芸術を鑑賞する機会をつくることができました。

###### 【佐渡裕指揮の定期演奏会を開催】

日本遺産「史跡足利学校」が「教育・文化のシンボル」と位置付けられていることから、教育と文化芸術を連携した本プログラムを展開しました。そこで、2011 年から足利市で定期的に演奏会を開催しており、足利市周辺の吹奏楽部に強く支持されている佐渡裕氏に講師・指揮を依頼しました。公演当日は、足利市内小学校で佐渡裕氏の出前音楽授業を行ったのち、当館大ホールで佐渡裕指揮シエナ・ウインド・オーケストラの演奏会を開催しました。

特に上記 2 つのプログラムは、足利市周辺の地域だけでなく東京などの広域からの来場があり、足利市の取り組みなどを PR することができました。



## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

### 【附属・専属団体による創造活動を地域で展開】

当館は周辺地域のニーズを鑑み、2009年に附属団体「足利ユースオーケストラ」を、2013年から芸術監督を迎え専属団体「足利カンマーオーケスター」「足利ミュージカル」「足利オペラ・リリカ」を結成し、地域の人々による公演事業、人材育成事業、普及啓発事業を行っています。

#### ①足利ユースオーケストラ

元群馬県交響楽団のコンサートマスターの風岡優氏を全体総括、過去に山形県交響楽団や群馬県交響楽団の指揮者を務めた工藤俊幸氏を常任指揮に迎えて活動をしています。隣市からの参加者もあり、子どもたちおよびその親たちの交流の場になっています。練習の成果は定期演奏会のほか、商業施設での出前公演、初心者向けの体験ワークショップなどを行っています。

#### ②足利カンマーオーケスター

元群馬県交響楽団のコンサートマスターを務めた風岡優氏を音楽監督に迎えて活動しています。定期演奏会のほか、市内高等学校や中学校の部活動の臨時練習講師を務めるほか、市内福祉施設や公民館、足利市議会議場でのアウトリーチなどを行っています。

#### ③足利オペラ・リリカ

二期会会員であり、オペラ歌手およびオペラ演奏研究を行っている大隅智佳子氏を音楽監督に迎えて活動しています。定期公演のほか、市内中学校合唱部の夏季休みにおける臨時練習講師を務めるほか、市内福祉施設や公民館、足利市議会議場でのアウトリーチなどを行っています。

#### ④足利ミュージカル

元宝塚歌劇団員であり、現在はケーアイイーミュージカルスクール代表で多くの宝塚音楽学校の合格者を輩出している小嶋希恵氏を芸術監督に迎えて活動しています。定期公演のほか、市内小学校におけるワークショップや公民館での出前公演などを行っています。また、練習組織である研究科や市民参加型公演では、隣市からの参加者もあり、子どもたちおよびその親たちの交流の場になっています。

以上のように、当館は地域の人々による、公演事業、人材育成事業、普及啓発事業を行いました。これにより、足利市内だけでなく足利市周辺地域に向けて、文化芸術の創造・発信ができる環境・機会をつくることができました。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

#### 【人材面について】

（事業運営体制について）

1つの事業に対して職員2名体制で対応しています。舞台運営（舞台・照明・音響）も同様に、各分野を職員2～3名体制で担当しています。舞台担当分野は、約1年でローテーションしており、どの職員でも舞台運営ができるような体制をつくっています。

（人材育成について）

館内における研修のほか、他の劇場で開催される研修（舞台技術研修、アートマネジメント研修など）に積極的に参加しています。

当館は今後5年で正規職員数の約6割が定年を迎えることから、若年層を積極的に採用し、公共施設経営の知識継承に取り組んでいます。

#### 【財務面について】

過去3ヶ年の事業収入、補助金は緩やかに減少傾向であり、併せて、事業支出も抑えるよう努めています。しかし、平成31年度は入場者・参加者が前年を上回る事業が多く、事業収入が増加しました。

また、各専属芸術団体のサポーター数は減少となりました。これは、台風19号や新型コロナウイルス感染症の影響により事業が中止になり、入会する機会が少なくなったことが原因として考えられます。

一方、友の会会員数や協賛企業数は緩やかに増加傾向となっています。継続して入会する人だけでなく新規加入者もあり、このことから当館の活動が地域の人に応援されていることが推察されます。

#### 【足利市内小中学校との連携】

当館は足利地区小中学校芸術教室研究会（市内の小中学校の教員で構成）と連携し、音楽・演劇・伝統芸能の鑑賞やワークショップを行っています。これにより、市内の全児童・生徒に文化芸術の入り口となる機会を創造しています。そして、この機会に文化芸術に関心をもった児童・生徒が部活動や当館の取り組みに参加できるような体制をつくっています。この教育と文化芸術が連携した活動は1968年から続けており、累計約170万人の児童に対して行いました。今後もこの連携活動は、アンケートや運営委員会による反省を踏まえつつ続けていく予定です。